



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第403号

続けられていることを誰よりも自覚して

主任司祭 フランシスコ・アシジ 谷口尚志

新型コロナウイルスによる影響が続くなか、GWが明けて福岡県内に3度目の緊急事態宣言が出され、それに伴い、教会活動も自粛せざるを得ない状況となってしまいました。5月は聖母月として特にマリア様の取次ぎを願って過ごす月間でしたが、残念ながら皆で集って祈りを捧げることができず、誰もが寂しい思いを抱えたことでしょう。しかし、わたしたちの母であるマリア様はこのような状況のなかでいつも熱心に祈っておられます(使徒言行録1・14 参照)。この姿はまさに教会と共に過ごしている姿であり、集うことができないわたしたちと共に過ごしている姿そのものです。

新型コロナウイルスによる影響が続くことを受け入れざるを得ない現状を前にして、わたしたちは次のことを自覚しなければなりません。それは、マリア様がわたしたちと共に日々を過ごされているということです。つまり、聖霊降臨によって世の中に派遣されているわたしたちのなかにマリア様もおられ、イエス・キリストによって続けられる救いのわざの協力者としての使命を続けられているという事実です。この神のご計画は世の終わりまで続くので(マタイ 28・20 参照)、マリア様の使命も世の終わりまで続けられることを知っているわたしたちは、この世で何が続けられているのかをもっと真摯に受け止めなければなりません。つまり、新型コロナウイルスによる影響が続くことを嘆くのであれば、神のご計画が世の終わりまで続けられていることに希望をもって応えていくことが大切だと気付かなければならないのです。教会にとって、続けられている神のご計画に答えることで、驚異的なこのウイルスだけでなく、続けてはならないことや後回しにしたり、見過ごしたりしてはならないことと向き合っていくことができるのです。

「ルカによる福音書」に続く第2巻として書かれた「使徒言行録」は、神のご計画が世の終わりまですべての人の救いのために続けられることを初代教会の歩みを通して教えています。現代に生きるわたしたち教会は、続けられる神のご計画の協力者として負の連鎖が続くことを嘆くだけでなく、神のご計画の証人としての日々を送っていく決意を新たにしましょう。



水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 6月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

＜水巻聖母幼稚園＞

晴れている日、子どもたちは、園庭を走ったり、縄跳びや鉄棒で、神様から頂いた身体を沢山使っています。

畑にはジャガイモの成長が見られたり、人参と向日葵の種を植えたりしました。子どもたちと、太陽のお恵みを沢山頂いて大きくなるようにお祈りしています。

今月は聖母月ということで、月末に行われる聖母の集いの時にお捧げする『心の花束』を子どもたちと準備しています。お友達や、植物、虫にも優しくすると子どもたちが話してくれました。これからもイエス様・マリア様の愛に包まれて優しく育ててほしいです。



水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559

e-mail : coutactus@mizumakiseibo.ed.jp



＜マリア子どもの家＞

今年の春はスナップエンドウの収穫がたくさんありました。畑で豆を千切り、朝のおやつで筋をむいたり、洗ったり、蒸したりなど、楽しく体験することが出来ました。

スナップエンドウの棚を取り払った畑には、今度は何を植えましょうか？みんなで耕していると、「あ！むし？」土の中から白い丸まったものが出てきました。掘っちゃってごめんなさい。ハナムグリの幼虫さん、こんにちは！

TEL : 050 5212 7759

HP : マリア子どもの家

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 水口 由美

教職員 一同



外国人から相談されて感じたこと 岩本 光弘

私は小倉教会の友人から時間があったら手伝って欲しいと頼まれたことがきっかけで長い間、在留外国人の人たちと付き合ってきました。それからいろいろな経験をしてきました。最初は戸惑うことばかりでしたが、少しずつ慣れて今まで続けることになりました。

私が在留外国人の人たちと接触が始まってから、彼らの実態も変わってきました。入国管理法も在留外国人の実態に合わせて少しずつ変わりました。在留外国人も定住する人が増えて永住ビザの取得者も80万人を超えています。来日する人も90年代まではラテンアメリカの日系人やフィリピン人が主体だったのが、技能実習生制度が始まったことで中国からの来日が急増し、最近是中国人に替わってベトナムからの来が増えました。

当たり前のことですが、来日した人たちは出身国の社会の仕組みが違うので、考え方が違いますし宗教も違います。中国とベトナムは共産党が政権を握っている国です。

彼らが私と同じカトリック信徒でも、信仰の考え方が随分違うことを感じます。生きてきた風土も歴史も違えば同じであるはずがありません。だからその違いを超えて理解しあうことは非常に難しいのです。

1997年に結成された全国ネットワークや九州ネットワークの共同代表も長く続けました。そのため各地で話をして欲しいという要請が来て各地に出かけました。2010年の入管法改定が施行されるときには、難民移住移動者委員会からの要請で改定入管法の学習会の講師で中国・四国・九州・沖縄の各地を回りました。2020年12月には長崎大学大学院から頼まれて在留外国人について話に行きました。話に行くのはこれが最後になると思います。

私が望んでいるのは、外国籍の人たちが日本社会で困らないように生活ができるようになって欲しいと言うことです。そのためには、彼らと対面して何度も話をします。そうすることによって彼らは心を開いて様々な相談をしてくれるようになります。

いろいろな国の人の相談を受けているときに障害となるのは言語ですが、不思議なことに毎回通訳をしてくれる人が現れます。そのような人を探すためにはいろいろな人が協力してくれます。それが後までつながって残り、その人たちが協力者になってくれています。

相談を受けた時に話を聞きに行くときは必ず誰かと一緒に出掛けます。一人で聞いた時に気が付かないことが沢山ありますが、一緒に行くとそのミスも防ぐことができます。

イエス様は「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである マタイ 18・20」と言われました。この言葉は痛切に感じています。また、「私の兄弟であるこの最も小さい者にしたのは、わたしにしてくれたことなのである マタイ 25・40b」とも言われています。

いつも一緒に活動をしている人たちは、みんなカトリックの信徒ではないのですが、問題が解決したときや、話を聞いてあげた時に当事者が喜んでくれる顔を見ると、ここにイエス様がいたといつも実感するのです。(4面につづく)

必ず注意したいのは、彼らは「可哀そうな人たち」という考えを持つことは絶対避けないといけないことです。彼らは日本と言う場所で働く人たちであり、母国の経済レベルがどうであれ貧しい人や虐げられている人たちではありません。同じ人間であり友なのです。

もし、その人たちがカトリック信徒であり同じ教会に来ているならば、同じ共同体の一員です。私たちの教会は日本のカトリック教会ではなく世界のカトリック教会の一員と言うことを忘れてはいけません。国籍と言葉が違うだけです。だからこそ他国の同じ教会から来た兄弟に関心を持ってください。お願いします。

最近各地のベトナム語のミサに行っていますが、何度も同じところに行くとそこに協力者が出始めているのを見ます。その時は、イエス様がここにも居られたと喜んで帰ります。

私も歳を取りましたので、今までのように活動を続けることはできないと覚悟していますが、イエス様に背中を押してもらって、もう少し頑張ってみようと思っています。



facekook 始めました

5月号でお知らせしていたように facekook (フェイスブック) が、広報委員を中心に、すでに立ち上がっています。今後は「週報」も掲載していく予定ですので、日程確認、教会からのお知らせなどもこれにより知ることができるでしょう。

いずれにしても立ち上がったばかりの facebook、信徒の皆さんの応援をお願いします。スマートフォン、PC、タブレットの検索欄に音声入力か、文字入力で「水巻カトリック教会 facebook」と入れるといくつかの検索候補が出てきます。いずれの機種も多分先頭の候補で facebook が開きます。

「からしだね」ホームページも見ることができます。facebook は、一般に公開される内容もあり、個人情報保護を考慮、教会発信の情報のみを行います。写真の扱いも個人情報保護の立場から、ご本人に掲載の可・不可を確認して行っています。

ご不明な点は、広報委員にお尋ねください。



【編集後記】

▽長年、教会で侍者をしてきた、クンさん(からしだね1月号「水巻教会の世界のなかま となりひと」に掲載)がコロナ禍のため、帰国が1年延びていましたが、やっと帰国の許可が出て、無事にベトナムに帰国されました。彼のためにお祈りください。

▽今月号は記事の都合上、紙面は4面となっています。目次はありません。